



首都圏初、平成30年度より開設予定 横浜市立大学「データサイエンス学部」設置に向け、始動。

横浜市立大学(学長：窪田吉信)は、平成30年度のデータサイエンス学部開設に向け、本日、文部科学省に設置届出を行いました。データサイエンスの名称を冠する大学学部としては、本学の設置する学部が、首都圏で初となります。近年、社会の様々な分野で急速に蓄積が進んでいるビッグデータの利活用を推進するため、医学・理学・経済学など多様な応用分野を持ち、融合型の教養教育を実践してきた本学の強みを活かし、データから新たな価値を創造するデータサイエンス人材の育成に乗り出します。

【特徴】

1 首都圏初の、データサイエンス学部

- ◇日々蓄積される膨大なデータから未来を拓くデータサイエンス人材を国際都市横浜から輩出
- ◇首都圏の医療活動や経済活動等の展開に伴って蓄積されるビッグデータやオープンデータの利活用

2 医学部、国際総合科学部を有する総合大学としての基盤

- ◇課題発見・解決力の養成に取り組む文理融合型の学部教育を実践してきた実績を有する
- ◇医学、生命科学、理学、経済学、経営学、社会学など、データサイエンスに展開できる多様な応用分野を有する

3 データサイエンス人材に不可欠な現場実践力を養成するカリキュラム

- ◇文理融合
統計学、計算機科学をベースとしたデータサイエンスの専門教育に加え、文系・理系の枠組みを越えた教育カリキュラムを提供
- ◇現場重視
企業や医療機関との連携を通じたPBL(Project Based Learning、課題解決型学習)により、実務を体験し、データが発生する「現場」の知識を学びながら、同時にデータ分析を通じたコミュニケーション力や課題発見・解決力を培う演習を豊富に用意
- ◇国際水準の英語力
TOEFL-ITP500点相当以上を3年次への進級要件とした英語教育を課し、世界で活躍するためのコミュニケーションレベルを修得。

